

# 本書の利用に当たって

## 1 マニュアル発行のねらい

北海道周辺海域で漁獲される魚類の中で、漁業生産（生産量および生産額）や資源管理対策推進上の必要性等を考慮して選定された主要な24魚種、のべ47海域の資源評価や資源管理状況等について紹介し、広く理解と関心を深めていただくことをねらいとしています。

## 2 マニュアルの読み方

マニュアル各部の内容は次のとおりです。

### 魚種名・対象海域

魚種名、資源評価の対象海域、また、この海域における主な漁業と漁期、そして、漁場について記載しています。

### 生態

資源評価において必要な生態情報（分布・回遊、産卵期・産卵場、成長・成熟）を記載しています。

### 資源評価

その魚種の評価年度や、資源量や来遊量の指標を記載しています。また、漁獲量や、資源量指標の現在までの推移と、今後の動向等が記載されています。

#### ・2020年度※の水準

過去20年間の資源量指標や北海道への来遊量指標を高位・中位・低位の3段階に区分し、評価年の資源水準や、来遊水準が、どの水準にあるかを示しています。



高水準



中水準



低水準

#### ・2021年度※の動向

翌年の資源量指標や来遊量指標の動向を示しています。動向予測には、資源解析結果や、幼魚の現存量といったデータが必要で、こういったデータが得られていない資源では「不明」となります。



増加



横ばい



減少



不明

※ 資源によって、対象年度は異なります。

### 問い合わせ先

さらに詳しく知りたい場合は、こちらにご連絡ください。

## 1.スケトウダラ

主な漁業と漁期

沖合及び近海：9～12月

近海：11～翌3月

はなは：11～翌1月



日本海海域

【日本海北部系群】

### 生態

#### ◆分布・回遊

石川県以北の本州および北海道の西岸、サハリン西岸、北部沿海州にかけて分布しています。ここでは、主たる分布域である釧路総合振興圏管内福島町以北～宗谷総合振興圏以南の日本海を日本海海域としています。

#### ◆産卵期・産卵場

◎産卵期は12～3月で、産期は南で早く、北で遅い傾向があります。

◎産卵場は釧路沿岸、若内湾、石狩湾、釧路沖、武蔵湾、利尻島・礼文島周辺にあるとされていますが、資源が大きく減少した現在、主要な産卵場は、釧路沿岸、若内湾、石狩湾であり、釧路以北の産卵場は小規模と考えられています。

#### ◆成長・成熟

(3～5月時点)

	体高(cm)	体重(g)
2歳	21	113
3歳	27	178
4歳	32	290
5歳	35	377
6歳	38	465
7歳	39	518
8歳	40	538
9歳	41	581

※1歳：1月時点の調査対象物の生体測定結果  
2歳以上：1995～2002年3月～5月の漁獲物調査結果

#### ◎成熟年齢

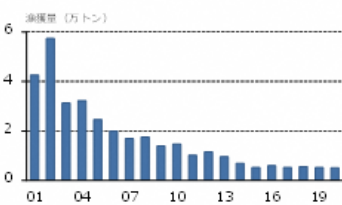
2歳から成熟する個体がみられ、5歳以上でほとんどの個体が成熟します。

### 資源評価

【評価年】4月～翌3月

【資源量の指標】産卵視魚量

2013年度以降、漁獲量は1万トンを下回っており、2020年度の漁獲量は5,115トンでした。資源水準は2004年度以降連続して低水準となっており、翌年にかけての資源動向は増加と判断されました。近年の漁獲強度は、資源回復を図る上で適正な水準に抑えられており、今後もこれを維持して、資源回復を図っていく必要があります。



2020年度

の水準

低水準

2021年度

の動向

増加

※ 漁獲量が資料されている年の資源回復率のデータも利用して算出しています。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産資源管理課資源管理班  
北海道立総合研究機構 釧路水産試験場資源研究室

電話 011-204-5477

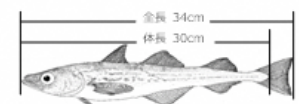
連絡 0162-32-7166

### 資源の維持・増大のために！

資源管理の現状(主なもの)

○TAC（漁獲可能量）管理  
2021年漁期のTACは、大目管理分4,346トン、北海道地帯管理分は3,774トンです。（2021年10月現在）

○資源管理協定（2019年3月更新）  
関係漁業者間で体長30cm又全長34cm未満の未成年魚保護を目的とする漁場移動等を定めています。スケトウダラ日本海北部系群資源回復計画漁業審議会  
沖原漁場で、漁獲日数の2割削減、小型魚の漁獲が2割を超過した際の漁中単位での漁場移動などに取り組むことが合意されています。



小魚量年級群が発生しています。これを資源の維持・増大に繋げるには、漁獲強度を適正な水準以下で維持していくことが重要です。

### 資源の維持・増大のために！

現在行われている資源管理に関する取り組みについて記載されています。

また、資源の維持・増大に向けて必要とされる事柄らについて、記載されています。